

B-1:研究コンプライアンスとリスク管理

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 9:00-10:30 中会議室202(2階)

「研究インテグリティ」にどう向き合うか？

近時、大学の国際化、オープン化のなかで、科学技術の国際展開に伴う外国の影響（例えば海外への技術流出防止等の国家安全保障への影響）への懸念が世界的に高まっている。そのなかで、研究者や研究組織等の研究コミュニティが守るべき自律的な行動規範たる「研究インテグリティ」確保により研究活動の健全・公正性を確保すべきとの議論が米国JASONレポートでまとめられ、我が国の内閣府「研究インテグリティに関する検討会」でもこの考え方が踏襲されているところである。

2021年4月27日付で文部科学省及び内閣府等から、通知文「大学及び公的研究機関における研究インテグリティ確保について（依頼）」（統合イノベーション戦略推進会議決定）が発出された。今後、研究や連携活動を行う際の「研究インテグリティ」への配慮は、我が国のアカデミア（研究者個人及び大学等組織）に大きな影響を及ぼすだろう。

「研究インテグリティ」の保持のために、研究活動の透明性を確保し説明責任を果たすといった対応が求められるが、現状の大学等は人的リソースも限られているため、複合的視点での配慮が必要なこの対応は、実際上、困難ではないか？また、アカデミック・フリーダムと調和をとりつつ、「研究インテグリティ」はどう位置付けられ、どのように実際上の運用を検討すべきか？

今回のセッションでは、「研究インテグリティ」の範囲、アカデミアでのあるべき体制システム、ベストプラクティス（項目や判断基準）等について、背景としての米国等の海外アカデミアでの状況も前提としながら、複数大学の実務担当者等によって検討したい。

各大学において、「研究インテグリティ」の捉え方、確保のための方策は異なるのかもしれないが、関連する利益相反マネジメント、安全保障輸出管理、トータルリスクマネジメントにも触れながら、近時のトピックを含め、事例研究等を行い模索・検討したいと考える。

オーガナイザー

石川 綾子:名古屋大学・学術研究・産学官連携推進本部学術連携
リスクマネジメント部門・輸出管理マネージャー/URA



名古屋大学大学院法学研究科修了、2012年よりリサーチ・アドミニストレーション室URA（法的・倫理的支援）として輸出管理、利益相反マネジメント等に従事。2015年～2017年文部科学省「産学官連携リスクマネジメントモデル事業」実施。2021年輸出管理DAY FOR ACADEMIA実行委員会副委員長。研究者や大学にとって負担が少なくリスクを実効的にマネジメントできる方法を模索している。

講演者

宮地 俊一:文部科学省・科学技術・学術政策研究所・ 企画課長



文部科学省入省後、STI政策に関する基本政策、調査分析・研究、EBPM、医療研究・研発法人所管などを担当。とりわけ高等局との併任による研究人材政策担当時にSTI政策における大学マネジメントやURAの役割の重要性を痛感。JST/CRDS出向時に本セッションに関する報告書作成のリーダーを担当。本年7月に文科省に帰任し現職。本協議会へは4年連続4回目の参加。

境野 明:筑波大学・利益相反・輸出管理マネジメント室・ 室長/教授



横浜国立大学経済学部卒業後、総合電機メーカーの国内外拠点にて国際調達、海外営業、安全保障輸出管理を担当。この間、CISTEC海外法制度分科会メンバーとしてアジア各国制度の調査活動に参画。2017年より現職。大学の留学生受入等に係る事前審査とともに輸出管理手続きのシステム化推進、教職員向け啓発活動等に従事。

佐藤 弘基:九州大学・法務統括室・室長補佐 /准教授



国際産学連携契約実務を経て大学法務機能整備の必要性を感じ、九州大学にて2011年国際法務室、2019年法務統括室の設置を主導する。大学法務やリスクマネジメント等に関し米国大学等を対象とした調査研究にも携わる。学外においても文科省リスクマネジメントモデル事業、経産省輸出管理アドバイザー、輸出管理DAY FOR ACADEMIA実行委員など、主に安全保障輸出管理の分野での活動を行う。

宮林 毅:名古屋大学・学術研究・産学官連携推進 本部・部門長/特任教授



これまでの35年の研究開発の経験を活かし、研究者一人一人の研究フィールドを知り、その立場に立って研究インテグリティ確保のためのトータルリスクマネジメントを実施し、同時にガバナンスを効かせたコンプライアンス経営の観点から実効性のある効率的な支援戦略を立案していきたいと考えております。